

宮城野会 会員数 199 名 (12/1 現在)

放送大学と宮城野会の一人ひとりをつなぎます

放送大学 同窓会

宮城野会会報

51号

発行日 : 2025 (令和 7) 年 12 月

発行 : 放送大学同窓会

「宮城野会」

放送大学宮城学習センター内

〒980-8577

仙台市青葉区片平2-1-1

TEL : 022-224-0651

Fax : 022-224-0585

E-mail miyagi-sc@ouj.ac.jp



9/13 役員会



11/8 役員会

学習センター付近の
季節の移ろい



11/22 映画鑑賞会

CONTENTS

2~4 宮城野会 とびくす

5 第12回東北・北海道地区交流会に参加して

6~8 招待席 「法が社会を映す鏡として——映画『ミルク』と同性婚訴訟」

客員教員 栗原 由紀子

9~10 交流ひろば

11 宮城学習センターからのお知らせ

12 同窓会宮城野会からのお知らせ

宮城野会の
活動を紹介
するページ
です

宮城野会

学位記伝達式 9月28日

会長祝辞(要旨)

皆さん本日はご卒業、誠におめでとうございます。この度、宮城学習センターに於かれましては34名という多くの卒業生を送り出され、二重のお慶びでございます。

今年の夏も大変暑うございました。金木犀はかすかですが、かぐわしい香りを放ち、秋の虫たちはそれぞれに鳴き声を発し、己の存在をアピールし、少しずつ秋に向かっております。

今、学位記を胸にされ、皆さんの脳裏を去来するものは何でしょうか。勉学を専らとしていた学生さん達と違い、“いつでも、だれでも、自由な学び方を”のキャッチフレーズの下にこの開かれた通信制の放送大学が存在することにより、大学で学ぶ機会を得ました。多くの放送大学の学生さん達は、仕事、家事、育児又は夫や妻、父や母、その他数多くの役割を担いながら”学びたい“という情熱に駆られ、この放送大学の門をたたき、本日晴れて卒業という偉業を成し遂げられました。皆様の卒業はまさしく快挙であり、拍手喝采を送りたいと思います。本当におめでとうございます。

加えてご家族や職場の仲間のご協力、学生さん同士の励まし合いや支え合い、また宮城学習センター高橋前所長や宮城学習センター八杵所長はじめご指導いただいた先生方、職員の皆様方のご協力などの結果が本日の栄誉であろうことは容易に推察できるところでございます。

皆さん！この放送大学で学んだ事を地域に社会に還元してください。そしてこの放送大学で学んだ事、学問に裏うちされた自信は実生活にも生かしてほしい。何物にもかえがたく、皆さんに大いなる勇気を与えてくれることでしょう。今後の皆さんのご活躍を心より祈念いたしております。

今年も全世界的に見ても地球温暖化による山火事や、水害、理不尽な他国への侵攻、線状降水帯による災害と、数え上げれば切りがないほど、いろいろな出来事が沢山ありました。私が今最も心を痛めていることに“袴田事件”や“大川原化工機事件”等など冤罪事件があります。これらの事件は捜査段階で違法性があり、退職する者の人間として考えがたい捏造やでっち上げにより裁判が正しい方に行かず、冤罪事件となったもののようです。この事件の陰に人間の功名を急ぐばかりの欲望があります。他人を不幸のどん底に落とし入れ、我が身の功名を手にした！果たしてそれは本当の我が身の幸福でしょうか？冤罪事件の件で皆さんに申し上げたい事は“功名は急ぐなかれ”常に心清く正しく、そして耳目を研ぎ澄まして生きて欲しい。正しくないものは正しくないと言える勇気を持っていただきたい。心痛めるニュースが沢山ありましたね。

とびっくす



その中であって嬉しいニュースも飛び込んできました。これはテレビなどで報じられる野球のことです。大リーグで活躍する大谷翔平、山本由伸の快挙に救われる思いでございました。

そして皆様の卒業はまさしく快挙であり拍手喝采を送りたいと思います。

さて皆さん！次の目標はなんでしょう。もう決めておりますか？

放送大学「宮城野会」へのご入会もお待ちいたしております。もう既にご入会を申し込んだ方もいらっしゃると思いますが・・・。当会は平成12年（2000年）6月25日に設立されました。無償の奉仕、ボランティアが必要と、一念発起し設立にこぎつけたのです。代々の所長はじめ、諸先生方、事務職員の皆様にも多大なるご協力を頂き感謝いたしておるところでございます。

当会は190余名の会員を擁しております。「宮城野会」では行事といたしましては4月に総会、6月と12月には会報「宮城野会」の発行、9月と3月の学位記伝達式の日に卒業祝賀会を学習センターと共催で行っております。これからの行事として11月22日に映画鑑賞会、2月には学習センターと共催で卒業・修士論文の発表会を行う予定となっております。会員になってこのような行事に参加してみませんか？

放送大学同窓会「宮城野会」を代表いたしまして祝辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

令和7年9月28日

放送大学同窓会「宮城野会」会長 佐々木 美枝子



学位記伝達式

9月28日、宮城学習センターにおいて2025年度第1学期に卒業単位を修得した学生の学位記伝達式が行われました。

八鍬 友広 所長から直接手渡された学位記は、心に残る大事な思い出のこもったものでした。

伝達式終了後に「宮城野会」主催で卒業祝賀会を開催、食事をいただきながら学生たちの一人一人にそれぞれの心境を語っていただき、有意義なひとときとなりました。



入学者の集い

10月5日、東北大学金属材料研究所2号館の講堂で開催されました。

入学式では岩永 雅也 学長の開会のご挨拶がありました。さらに宮城学習センターから八鍬 友広 所長のご挨拶の後に事務長から放送大学の学びに関する説明をしていただきました。そのあと客員教員の紹介や各サークルの紹介などを伺うことができました。

映画『二宮金次郎』鑑賞会

11月22日、宮城学習センター講義室1を会場として行いました。

この作品を研修会等の実施が可能なかたちで購入された、本学教養学部全科履修生の戸田 藤和さんのご協力でご実現できました。今回の鑑賞会のために充実した資料や書籍をご用意くださったこともあわせて、改めて感謝の意を表します。

二宮金次郎さんが実際に「仕法」を行ったというゆかりのある土地からの参加者もいらして、感想を話しながら改めてその人となりや業績について考えることができました。

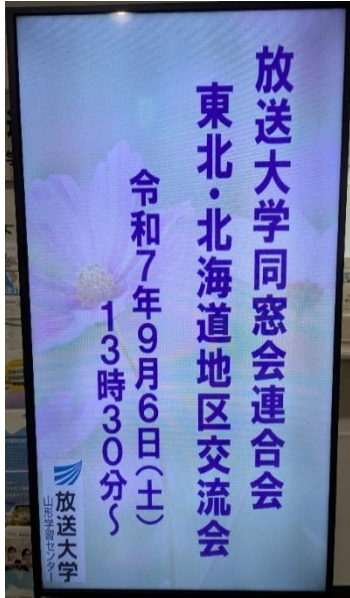
鑑賞会直前に宮城県内ではインフルエンザが警報のレベルを超えて流行しているとの報道がありました。その影響もあってか、残念ながら参加者は少人数でしたが、深い学びの時間となりました。

とても素晴らしい作品であるため、再度鑑賞の機会を設けられないか検討しております。



第12回東北・北海道地区交流会に参加して

報告者 宮城野会 谷津美智子



9月6日、7日の2日間にわたって開催された、放送大学同窓会「東北・北海道地区交流会」に、初めて参加した。

会場は、「霞城セントラル10階」にある放送大学山形学習センター講義室101教室で、29名の参加であった。

交流会は、山形同窓会柳澤会長の挨拶で開会し、第1部記念講演会、第2部情報交換会として進められた。記念講演会では、放送大学客員教授の荒木志伸先生から、「城下町山形の発展と歴史文化遺産ー山形城、最上義光歴史館の見学に寄せてー」と題した講演をしていただいた。山形の礎を築いた最上義光の時代による評価の変遷と実像にせまる話は、興味深いものがあつた。

情報交換会では、山形学習センター山本所長の挨拶の後、放送大学近藤副学長から、放送大学の近況報告があつた。コロナ禍以降は役員の引き受け手が少なくなる傾向になり、ZOOMの活用をしている同窓会もあるが、まだ十分ではない状況であること等が話された。また、放送大学連合会からは、秋田同窓会は役員不足で、現在、休眠中であることが報告された。

参加した各同窓会の情報交換会では、課題や活動が報告された。共通の課題は、新しい会員の確保と役員の選任が難しいことが報告された。活動では、北海道同窓会は、ZOOMを使った会議を実施し、遠隔地の役員にも十分に力を発揮してもらえるように計っているという話が出た。また、青森同窓会も、学習相談会、交流会、総会は、対面のほか、ZOOMでの参加も可としていること、福島同窓会では猪苗代湖とそこに流入する河川の水質調査を行い、その成果を、福島県主催の「湖未来環境保全活動」で他の団体と共に発表していることが報告された。

今回の交流会に参加して、役員の確保などの課題はあるが、どの同窓会も工夫しながら学びや交流を行い、社会貢献などの関わりを持ったものなど、特色ある活動がなされていると感じた。

交流会で有意義な話を聞かせていただいたことに感謝し、報告とする。

放送大学		放送大学同窓会連合会 第12回東北・北海道地区交流会	
日 時	9月6日(土) 13:30~17:30		
場 所	放送大学山形学習センター		
第1部	記念講演会	13:30~15:00	
	放送大学山形学習センター客員教授 (山形大学教授) 荒木 志伸 先生		
第2部	1 山形同窓会会長挨拶(柳澤会長)	15:30~15:40	
	山形学習センター所長挨拶(山本所長)		
	2 放送大学の近況報告(近藤副学長)	15:40~15:55	
	3 連合会からの報告(須藤会長)	16:00~16:15	
	4 各同窓会情報交換会	16:20~17:30	



「法が社会を映す鏡として——映画『ミルク』と同性婚訴訟」

放送大学宮城学習センター
客員教授 栗原 由紀子

最近、ちょっとした機会があって、映画『ミルク』（2008年）を観た。この映画は、1970年代のアメリカで同性愛者の権利拡張を訴えた政治家ハーヴェイ・ミルクの実像を描いた作品である。ミルクは「見えない存在」とされてきた人々が、社会の中で声を上げることの大切さを信じ、地方議会の一員として制度の中から変化を起こそうとした。その姿は、単なる少数者の権利運動にとどまらず、「法が誰を人として認めるのか」という根本的な問いを社会に突きつけていた。その姿勢は、今日の日本における同性婚をめぐる法的・社会的議論とも深く響き合っているようにも思う。

日本では2019年以降、いわゆる「結婚の自由をすべての人に」訴訟が全国各地で提起されている。この訴訟では、同性間の婚姻を法的に認めない民法や戸籍法等の現行制度が、日本国憲法14条（法の下での平等）、13条（個人の尊厳・幸福追求権）、および24条（婚姻の自由と両性の本質的平等）に反する（すなわち、「違憲」）かどうかが問われてきた。2021年3月の札幌地裁は、現行法を「合理的根拠を欠く差別」として日本国憲法14条違反と判断した。その一方で、2022年6月の大阪地裁は現行制度を合憲と判断し、同年11月の東京地裁は現行の制度不備を「違憲状態」と評価した。さらに、2023年5月の名古屋地裁は、日本国憲法14条違反に加え、24条2項が定める個人の尊厳の理念にも反するとして違憲と判示した。

◆「招待席」は、客員の先生に原稿をお寄せいただいております。

2024 年に入ると、高裁レベルでの違憲判断が相次いだ。札幌高裁 2024 年 3 月 14 日判決は、民法および戸籍法が同性婚を認めていない現行法制を、日本国憲法 24 条 1 項・2 項および 14 条に違反すると判断した。東京高裁 2024 年 10 月 30 日判決も、同性婚を認めないことが日本国憲法 14 条と 24 条 2 項に反すると明確に述べ、福岡高裁 2024 年 12 月 13 日では、憲法 13 条・14 条・24 条のいずれの趣旨にも反するとする判断が報じられている。こうした高裁レベルでの判断の蓄積は、立法府に対し制度改正の必要性を強く突きつけているといえるだろう。

これらの訴訟の核心は、民法が規定する婚姻制度の技術的な枠組みの問題にとどまらない。つまり、「人が誰を伴侶として生きるか」という人格的自己決定の尊重を、法がどこまで承認するのかという点こそが問われているのではないだろうか。札幌地裁判決が指摘したように、同性カップルが法的保護の外に置かれることは、個人の尊厳（日本国憲法 13 条）に深く関わるからである。このような司法の判断が社会に与える影響は、判決の文言を超えてどんどん広がっているように思われる。さらに、札幌高裁や東京高裁の違憲判断が社会に与えた反響は、単なる法技術的な問題ではなく、私たちがどのような社会を望むかという倫理的・政治的選択を突きつけているともいえるだろう。それゆえ、従来の婚姻秩序・婚姻制度の維持を理由に、同性カップルに法律婚を認めないといった「法の下の不平等」を放置することは、日本国憲法が保障する「個人の尊厳」の理念に照らして慎重でなければならない。法は社会の変化を映す鏡であると同時に、その変化を導く道標でもある。同性婚の是非は、家族法制の問題にとどまらず、社会が多様な生をどこまで承認しうるかという近代憲法の根幹にかかわる問いであるといえるだろう。

一方、映画『ミルク』が描く社会変革の過程において、ミルクは、法の変化を待つのではなく、市民がその変化を求める主体であるべきだと信じた。彼の言葉

「Hope will never be silent（希望は沈黙しない）」は、社会的少数者が自らの存在を可視化し、法的平等を訴えることの力強さを示している。日本の同性婚訴訟の原告たちもまた、司法判断の結果以上に、「法の外に置かれた自分たちの現実を、社会に見える形で伝える」ことを通じて変化を促しているように思う。

招待席

アメリカでは、ミルクの時代から半世紀を経て、連邦最高裁が同性婚を憲法上の権利と認めた（Obergefell v. Hodges, 2015）。その背景には、市民一人ひとりの語りが積み重なり、社会の理解が変化した長い道のりがあった。日本でも、司法や立法に判断を委ねるだけではなく、社会全体で「誰の幸福を法が守るのか」を問い続ける努力が求められている。

映画『ミルク』が教えてくれるのは、法の変化とは突然訪れるものではなく、人々の声の積み重ねの中から生まれるということである。同性婚訴訟の意義もまた、勝敗のみにあるのではなく、社会が自らの価値観を見つめ直すきっかけにある。希望は沈黙の中からは生まれない。法が多様な生の現実を映し出す鏡であり続けるために、私たち自身もまた、現実を見つめ、語り続ける責任を負っているのだと思う。

<プロフィール>

栗原 由紀子

尚絅学院大学総合人間科学系社会部門教授
放送大学宮城学習センター客員教授

成城大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学
専門は民法及び消費者法

令和5年度消費者支援功労者内閣府特命担当大臣表彰受賞。

宮城県消費生活審議会会長及び東北電気通信消費者支援連絡会座長。

近著として、「火災保険金申請サポートサービスによる消費者問題」青森法政論叢 25 号、
「詐欺的な定期購入商法による消費者トラブルの予防と救済」先端消費者法問題研究 3 巻、
「サブスクリプション契約における消費者トラブルと自動更新条項」現代消費者法 55 号
など。



卒業までの思い出

匿名希望

今から12年前、私は体調不調が続いていました。病院で検査をしたところ、糖尿病、狭心症の病気が判明し東北大学病院へ入院しました。また私の家族も糖尿病による合併症で亡くなった経過もあり、自分自身の健康や仕事など将来への不安が増していました。体調が回復し職場復帰すると、偶然職場の同僚が、始業前に熱心に学習しているではありませんか。声掛けしたところ、放送大学にて勉強しているとのこと。時間に縛られず、自分のペースで学べるという点が、まさに私のようなマイペース人間にとって理想的な大学でした。高校を卒業して社会に出てからというもの、これまで仕事優先の人生だったため、ほとんど学問に向き合う時間はありませんでした。というよりも学問が嫌いで、正直避けていたのかもしれませんが。自分の病気や家族の死により、生命や時間には限りがあることを実感し、放送大学での学位取得にチャレンジしてみようと思った訳です。

放送大学の仕組みに慣れるまでに戸惑うこともありましたが、インターネットによる講義は、自由な時間に何回も視聴することができ、普段テレビ番組などで活躍している有名な先生による授業も、学習する上でとても励みになりました。私は法律や経済に興味があったので、社会と産業コースを選択しました。放送大学では他コースの科目を選択できることも、とても魅力的でした。個人的に興味があった他コースの科目を選択するなど、幅広い分野の科目を自由に履修することが出来ました。

宮城学習センターで参加した面接授業では、教室で直接顔を合わせて議論を交わしたり、白衣を着て実験をしたりと、憧れていた学生気分を味わうこともできました。

焦らず急がずマイペースで学習したところ、放送大学で学位を得るまで9年という年月がかかりました。卒業したばかりで次の目標は未定ですが、じっくり熟慮のうえ考えていきたいと思います。

最後に、ご指導をいただいた先生方、学習センターの職員の皆様、そして学友の皆様、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



「意志あるところに道は開ける」

山田孝子

これは、私が小学5年生の時の担任から教えてもらった言葉です。私は大した意志を持っていない子供でしたが、なぜかこの言葉を忘れることができず、大人になってから調べたところ、アメリカ第16代大統領エイブラハム・リンカーンの言葉だったということが分かりました。

けれども、私の行動力にそのような人物が描いた高尚な目的はなく、4年前に転職をすることで出来た生活の余裕時間に新しく何かを始めるには今かな？程度の思い付きで、放送大学の扉をたたくことになりました。

ただ、すぐに、放送大学の資料を読むうちに公認心理士を目指そうと思いました。スクールカウンセラーのような仕事をしたいという、くすぶっていた夢が浮上したのです。結果的に私には難しい資格でしたので、認定心理士の単位を取得することが目標となりましたが。

初めのうちはレポートというものが書けず苦勞をし、勉強の仕方が分からずD判定になった科目もあり、かなり落ち込みました。それでも続けられたのはなぜだろう。卒業を迎えた今、考えてみました。

一番に言えることは、放送大学の授業の面白さです。これまでの人生では出会う機会がなかった知識が、驚きと感動を伴って私の中に流れ込み、試験の出来不出来はひとまず二の次で、日ごとの授業に惹きこまれていったのです。世事に対しても関心を持つようになり、どのようにこれらの知識を生かすことが出来るのかを考えるようになりました。生活をする中で目標を持ち、それが生きてゆくことに対しての私の意志であると認識させてくれた、それが放送大学です。

還暦を迎えた今年、おぼろげな座右の銘と4年間の勉強で、私は「生涯、学ぶ」という意志を得ることが出来ました。そうして今後の道を作るため、たった今第一歩を踏み出したところです。





宮城学習センターからのお知らせ



2026 年 1 月 31 日（土）

公開講演会を開催いたします！

「心理療法入門」

日時：2026 年 1 月 31 日（土）13：30～
場所：片平さくらホール 2 階
聴講方法は会場参加、Zoom 参加のどちらかを選んでもいただけます
詳細は宮城学習センターまでお問い合わせください
電 話：022-224-0651
メール：miyagi-sc@ouj.ac.jp

聴講無料

事前申込制

講師
仙台白百合女子大学准教授
放送大学宮城学習センター客員准教授
中嶋 みどり 氏

2026 年度 4 月
入学生募集中！
個別相談受付中



再入学に関する相談・学習の進め方等に関する相談を承ります。
試験の受け方、成績の確認方法など、在学生の相談も受け付けています。
ご希望の方は、宮城学習センターでお待ちしております！

電 話：022-224-0651 メール：miyagi-sc@ouj.ac.jp

出願期間

2025 年 11 月 26 日（水）～2026 年 2 月 27 日（金）
2026 年 2 月 28 日（土）～2026 年 3 月 16 日（月）（17 時）

個別相談申込み

QRコード



同窓会 宮城野会からのお知らせ

研究発表会と茶話会のご案内

◆日時：2026年2月28日（土）13:00～15:30

◆会場：宮城学習センター 講義室1

<研究発表>

・久形 美香さん

放送大学大学院文化科学研究科 人文学プログラム

「中国・北朝鮮・韓国の古代史継承問題にみる歴史意識の相違
ー中国東北地方にかんする「東北工程」をてがかりにー」

・菊地 真さん

放送大学大学院文化科学研究科 自然環境科学プログラム

「地域特性を生かした脱酸素社会実現への取り組み方法の研究-ZEB データの有効利用-」

<お問い合わせ・お申し込み>

宮城学習センターの窓口・電話・E-mail でご連絡ください。

電話：022-224-0651

研究発表後
茶話会を行います

*申し込み締め切り：2026年2月10日（火）

皆さん「宮城野会」にお力を貸していただけませんか

役員になっていただける方を大募集いたします

会長 佐々木 美枝子

皆さん、役員になって「宮城野会」に新風を吹き込み、今以上に魅力ある会にしてみませんか。

設立25年の「宮城野会」ですが、現在少人数の役員しかおらず、サポーターさんの協力も得ながら行事や会報発行などをしております。

年間行事として春に総会、6月と12月に「宮城野会会報」の発行、9月と3月に学習センターと共催で学位記伝達式後の卒業祝賀会、2月に研究発表会などを実施しております。その他会員向けの行事を企画することもあります。

役員になって一緒にこの会を盛り上げてください。若い方も、高齢かなあと思っている方でも、どなたでも大歓迎いたします。

皆さんのお申し出を心より願っております。よろしくお願いいたします。

*ご協力いただける方は、E-mail miyagi-sc@ouj.ac.jp までお知らせください。

